

午後1時10分再開

○議長（中島秀樹君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、11番柴山恭子議員の質問を許可します。11番柴山恭子議員。

（11番柴山恭子君登壇）

○11番（柴山恭子君） 皆さん、こんにちは。皆さん、覚えていますか。昔は公衆便所といやあ、臭い、汚い、そんな場所でした。

しかし今、日本の公衆便所は、広い空間と掃除も行き届き、ウォシュレットの設置が進み、外国のお客様から絶賛されております。公衆便所です。

先日行きました山口花博は、仮設トイレではありましたが、数も多く、男女それぞれに色分けされた囲いがあり、とても清潔で使いやすいトイレでありました。

家庭のトイレも、昔は「御不浄」と呼ばれておりました。部屋から離れたところか、外に便所がありました。しかし、生活様式の変化の中、水洗化も進み、家庭でさえ、2カ所のトイレがあるところが多くなり、快適な場所となりました。

明善高等学校のホームページに、みんなではだしで素手で膝をつき、トイレ掃除をする投稿の写真があります。「俺がやらなきゃ誰がやる」のTシャツを着た子もいます。すばらしいですね。そう、トイレは汚く臭い場所ではないのです。日々進化しています。

朝倉市のコミュニティセンター、学校、その他公共の施設、このトイレ、それからいろいろな設備について、これより質問席より質問させていただきます。よろしく願いいたします。

（11番柴山恭子君降壇）

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） じゃあ、総務部長にお尋ねします。

朝倉市コミュニティ振興指針の基本理念は。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 申します。

「輝け！地域の力、見つめ直そう地域の良さ！」でございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） そうです。旧小学校を単位とした甘木12、朝倉1、杷木4のコミュニティの考え方は、合併10年を超し、見直しもなく、ずっと今のままでよいと思われませんか。このままで自立した自主運営型のコミュニティ活動を行っていけると思いませんか。お尋ねします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 地域では、さまざまな歴史背景があるということでございます。

また、その社会状況とか、どう変わっていくかということの中で、コミュニティのあり

方等は変わっていくものだと思いますが、今どうこうというふうな考えは現時点では持っておりません。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） それでは、地域コミュニティ活動助成補助金1人当たり最高4,800円、最小700円、地区加算82万円の考え方も不思議です。人口も地域によっては1万を超えるところもあり、360人のところもあります。センター利用人数、年間最大3万8,861人から1,063人までと大きな差がありながら、事務局3名体制です。

ふるさと課は、地域行事は人口に関係なく同様のことが行われるので、大変さは変わらないとよく言われますが、この数字を聞いても、そうだと本気で思われますか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） さまざまな規模があるというふうに思います。それについて、今この場でから、その部分がいいか悪いかという結論は出すことはできません。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 私は何も、いいか悪いかやら聞きちりません。これを聞いてどう思われますかと聞いております。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 地域の大きさには、従来からのコミュニティの結成のときの人口の世帯数とかがあったんだが、その後、大きな人口の変化とか災害の変化とか大きくあったんだというふうに受けとめております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） そんな答えが返ってくるちゃ思わんが。私は、「そうですねえ、そんなに差があるんですか。そうすりゃ、私たとしても、ちょっとは考え直さないかんです」ぐらいの答弁が欲しかった。

次に行きます。

小学校は統合されました。なぜコミュニティはそのままなのか。人口がふえても減っても、コミュニティはやはり旧小学校区のままよいと思われますか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） コミュニティ組織の範囲でございしますが、市がどうこうリードしてというものではないと思っております。今、そういう差なり大きさが変動しておるということについては、いいか悪いかの観点から言いますと、地域の特色があるというふうに受けとめております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） そういう答えを待っていたんですよ。実は、次の質問はそこ辺からになるから。

機嫌がよいこと、丁寧なこと、親切なこと、寛大なこと、幸福は常に外にあらわれる。

外にあらわれて、他の人を幸福にするのが真の幸福である。三木清の「人生論ノート」、幸せについての一節です。人と人のきずなが深いほど、家族との触れ合いが深いほど、人は幸せとを感じるそうです。コミュニケーションは、人数が少ないほどとりやすいと言われます。

さつき部長、言われたでしょ。「輝け！地域の力、見つめ直そう地域の良さ！」、この基本理念に基づき、地域住民がこの地に住んでよかった、幸せだと実感できるまちづくりをどのようにすべきと考えられますか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 人数が少ないほうがよいという一言もありましたけれども、コミュニティにつきましては、私どもが市として進めておりますのは、コミュニティ協議会なり、従来の振興会の延長という大きな組織のコミュニティを言っておりますけれども、例えば集落とか区とか隣組とか、たくさんコミュニティがあると思います。

そういう中で、それぞれのコミュニティ、例えば小さいものから大きいものにつきまして、地域の魅力を磨くといったように、それぞれが充実するようなコミュニティとなるように、市としても進めていきたいと思えます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 部長の話聞けば、地域の持つそれぞれの特色を崩さないようコミュニティセンターが設置されているのであれば、小学校のように統合できないのであれば、人口がふえ、運営の難しくなったコミュニティは分割の必要があると思えますが、市長にお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 市長。

○市長（林 裕二君） 柴山議員が立石にお住まいということでありまして、立石コミュニティは人口が非常に多いと。そしてまた、ふえていく可能性もあると。いろいろ課題があるということを考えて、コミュニティのことを真剣に考えていただいているという私の認識のもとに、議員のおっしゃっていることは、私は理解をいたしたいと思えます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） ありがとうございます。何かちょっと先行き希望が見えてきました。ふるさと課、今の話聞きましたね。

じゃあ、次に、コミュニティのトイレについてお尋ねいたします。

近年高齢化に伴い、各地方公共団体がコミュニティセンター等公共施設のトイレの洋式化、バリアフリー化を推進しています。コミュニティセンター、トイレの調査をお願いしました。何を感じ、問題点は何でしたか。

○議長（中島秀樹君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（森田和枝君） トイレの数につきましては、各17コミュニティ、数字としてとっております。

ただ、コミュニティ自身の施設等の大きさ等で若干違いますけども、ふるさと課としては、多目的トイレのほうを全部設置をしております。あと、柴山議員が言われております、男子トイレの個室化とか女性トイレの洋式の多さとか（発言する者あり）今、多目的トイレのほうは、全コミュニティのほうにはちゃんと設置をしておるところです。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 多目的トイレは、フレアスに2基、ほかは全て1基でした。調査によりますと。

じゃあ、多目的トイレの意味と必要性についてお尋ねします。

○議長（中島秀樹君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（森田和枝君） 多目的トイレの目的なんですけども、やはり足が悪い方とか高齢者の方、また手すり等をつけているトイレ等というのは必要性を感じておりますので、トイレ等をつくっております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） ウォシュレット機能はついていましたか。この記述がありませんでしたので、お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（森田和枝君） 多目的トイレにつきましては、立石のほかは、ウォシュレット等についてはついておるところです。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 立石だけがついていないということですか。

○議長（中島秀樹君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（森田和枝君） そうです。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 以後どうされますか。

○議長（中島秀樹君） ふるさと課長。

○ふるさと課長（森田和枝君） 財政面もありますので、今後検討させていただきます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 昔は、検討といえばしないことでしたが、今は、検討といえばすることですので、希望を持って、その答弁聞かせていただきます。

なぜそう言うかということ、体の不自由な人にとっては必要な機能だと思うからです。健康な人は、そうウォシュレット機能がついとついても、つかんでも、ちょっと不便なだけだけど、体が不自由な人にとっては非常に大切な機能だと思いますので、これをお尋ねしました。

立石地区では、敬老会参加者242名、文化祭では1,000名を超えております。利用者の高齢化に伴い、洋式トイレへの利用集中がひどく、職員はトイレ利用待ちの方の粗相対応や

清掃業務が大きな負担となっております。男性トイレも、尿漏れパッド使用者がふえ、個室トイレの必要性が近々の課題となっております。

コミュニティセンターに寝泊まりし、食事づくりや洗濯など自分のことは自分です、小学生の通学合宿8日間の活動においても、家庭の洋式化で和式トイレになじめず、腹痛を起こす子どもがふえています。これをどう考えてありますか。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） コミュニティセンターの利用の人数が多いので、という意味です。トイレが足りないという意味です。もちろん洋式トイレがないということです。あるはあるけど。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） トイレにつきましては、先ほど当初に言われましたように、きれいで機能的なトイレが一番望ましいということでございます。

トイレにつきましては、すぐに設置するということが、すぐにはできませんので、トイレのあり方というのは、そのコミュニティ施設だけのことでなくて、ほかの公共施設全体のトイレのあり方について、やっぱり充実させていかなければならないと思っているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） そうです。コミュニティだけではありません。文化館にしても、その甘木公園にしても、朝倉市の執行部の上層部は、果たして「トイレ」の「ト」の字でも考えることがあるのかなあとちょっと心配しますが、やっぱり考えてありますか。

○議長（中島秀樹君） 副市長。

○副市長（中野信哉君） 議員御指摘の点、いずれも非常に切実な問題であるというふうに認識しております。特に体の不自由な方にとっては、トイレの問題というのは、外出の際の都合を考える上でも、非常に重要なことだと思います。

先ほど部長が申したとおりではございますけども、財政面、その他市全体のものを見まして、これはしっかり検討をいたしたいというふうに思っております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） ありがとうございます。そんなに書いちゃった。

財政厳しい折ではありますが、利用者数に応じたトイレの整備は、一遍にするのは難しいでしょう。だけれども、今年度はどこを改善する、洋式を一つでもふやす、少しでも前に進めるべきではないかと思えます。お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 確かに、一つ一つ段階を踏まえてやっていくということになるかと思っております。私どもはトイレというのは、施設の中でもやっぱり重要な部分だというふうに考えますので、やっぱり施設改修のときだけではなくて、トイレのことにつ

いては、特別な意味を持って考えていくというような姿勢を持ちたいというふうに思っております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） ありがとうございます。私は視察でどこの市役所に行っても、まずトイレに行きます。この市役所はどんな市役所だろうかと思うときに、トイレで判断をいたします。もちろんそれは公共のコミュニティセンターであったり、公園であったり、いろんなところでありますが、この朝倉市の文化程度はどれほどに高いかを考えるときには、トイレの整備がどれほど充実しているかにかかってくると思いますので、災害あり、いろんなことがあり、財政の苦しいことはよくわかっておりますが、少しずつ朝倉市のまちづくりのトイレの考え方についても考え直してほしいと思います。

次に、安心安全を守る体制について質問いたします。

私ども総務文教委員会は、11月8日、山口県周南市に視察に行きました。「安心安全・ふるさとを守る」を基本方針として、地震、津波、石油コンビナート、土砂災害、洪水、高潮、ダム放流による災害を想定し、従来の防災行政無線に固執しない、独自に複数の防災情報システムの構築を平成23年3月から始まり、平成31年3月に完成に向けているということでした。自主防災活動組織率100%、自主防災活動支援補助金制度もあり、補助対象物品として防災資材収納倉庫もあり、これは移動可能な据えつけ型の倉庫を想定しているそうです。

朝倉市においては、災害時、自主防災組織はどのように機能しますか。防災資材収納倉庫等の補助金はありますか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） まず、1点目の自主防災組織の動きでございます。

住民がみずからを災害から守るということで、まず自助がありますけれども、地域社会がお互いを守る共助というのは大変重要であると思っております、そういう共助の動きを担うものが自主防災組織でございますので、そういうお互いを助け合うという機能を持つものが自主防災組織でございます。

次に、資材等の補助についてでございます。

資機材につきましては、まず市のほうがそろえるということをしておりますので、地域がそういう資材について導入したい、用意したいというときの補助につきましては、今のところはございません。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 私は立石に住んでおりますので、ほかの地域のことはよくわかりませんが、立石とすれば、例えば災害時、毛布はここにある、鍋はあっちにある。いろんなことがあります。

いざ災害時になかなか、そこに行けば全ての物がそろうとか、そういうのがありません

ので、どうしても防災倉庫は必要になってくると思います。どうお考えですか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 防災用の倉庫につきましては、資機材を格納するという意味におきまして、必要だと思います。

ただ、どの範囲で置くかということにつきまして、市のほうで明確に基準等はありません。今そういう状況でございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） どの方向に置くのかじゃなくって、倉庫を建てる際に、コミュニティに対して若干の補助金はありませんかというのを聞いとります。

○議長（中島秀樹君） 防災交通課長。

○防災交通課長（二宮正義君） 市単独の自主防災組織に対します補助金はありませんが、例えば宝くじ助成事業等の中では、自主防災組織の中で具体的に防災倉庫、建築基準法に係るようなたてつけといいますか、そういうものは対象にならないんですが、移動可能な形式であれば、一部可能な制度はございます。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） ありがとうございます。

その前の自主防災組織の機能についてですが、私が思うに、まだまだ朝倉市の自主防災組織は考え直さなくてはいけないところ、頑張らなくてはいけないところがあると思うんですが、市としてはどう思っております。今のやり方で、自主防災組織はオーケーだと思っておりますか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 自主防災組織のあり方につきましては、私たちは今考えているのが、災害リスクが大変あるところとそうでないところとか、それから地域の意識とかいろいろまた違いがあるということ、そこあたりを含めて、やはり訓練をしなくちゃなんないというようなことをずっと思っております。

やはり自主防災組織のあり方につきましては、市と地域が力を合わせるといいですか、一緒になって考えていく必要があると思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） もっともっと力を合わせてください。今の力の合わせ方は足りません。なかなか自主防災組織を機能させるということは難しいことだと思いますので、本気で市と地域とが力を合わせて、この組織をつくろうというのであれば、地域の話をよく聞き、そして頑張ってもらいたいと思います。よろしくお願ひします。

朝倉市におきましては、屋外の防災行政無線、有線放送や個別無線の整備などが行われていますが、防災情報伝達や地域活動のための情報伝達手段のおくれている地域についてお尋ねします。

屋外拡声器での災害情報の伝達は、屋内の人には非常に伝わりにくい。それとは別に、個別受信を情報伝達の基本とすべきと考えます。本庁、支所、コミュニティセンターに基地局を設置し、災害時には双方向で情報収集伝達ができ、平常時には地域活動に利用できる。有線放送もだんだんと利用できなくなってくるとき、少しずつでも整備を進める計画をすべきではないでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 情報の伝達につきましては、今おっしゃってありますのは、緊急時と、それと平常時と、二通り使えるような方式をしたらどうかという御提案でございます。

今現在、緊急時につきましては、屋外用の防災行政無線でやっておるんですが、それだけではございませんで、さまざまな情報伝達手段を通じて行っているという現状がございます。

情報伝達につきましては、1つではなくて、「まもるくん」でありますとか、緊急速報メールでありますとか、例えばデジタル放送の中に朝倉市の情報を置くとか、さまざまな方法がありますので、今現時点で、そういうハード面の部分を整備するということには考えておりません。

ハード面、つまり地域放送とか、それから屋内でも聞こえる方法といたしますのは、莫大な経費が要するということがありますので、今そういう莫大な経費について、この場で即答できるというような代物ではございません。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） この場で即答できないのであれば、どの場で考えられますか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 市の課題、つまり情報通信技術の発達状況というか、普及情報と、それから市の課題、財政状況、これらを考慮しながら、よりよい手段の調査研究を継続していくということでございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 先日、4,000万件の重大な通信障害が起きました。デジタル時代の新しい通信機器災害だと言われております。1つに頼ることが危ない時代です。できれば、職員の先進地視察を考えるべきではないかと私は考えます。

私は周南市に視察に行きました折、予算をはっきり覚えていないんですが、思うほどの予算ではありませんでした。担当も、それはそういう仕組みがないのかは知りませんが、先進地に行って、大体どれくらいのお金をかければこういうものができるちいうのは、きっかり勉強してくるべきではないかと思いますが、どうお考えでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 他自治体がどういうふうな取り組みをしているかにつきまして

ては、視察の方法もありませんし、そのほかもあると考えております。

周南市に行かれたということでございますが、情報も提供していただきまして、ありがとうございました。これも含めまして、そのほかの方法等も含めまして、さまざまな研究を行っていききたいというふうに思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 部長、「百聞は一見にしかず」と言います。見てくることです、先進地防災のあり方を。

それをうちの市にどうすることができるかは、そこそこの予算状況もありますし、いろんなことがあると思いますが、今の屋外の無線だけで決していいとは思われません。ましてや、有線放送も線が切れて、なかなか使えなくなる今の朝倉市にとって、少しでも無線のことを考える頭が欲しい。お金がないから、これはできませんよというような考え方はおかしいと思いますが。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 確かに、無線は有効な手段であるというふうに思います。無線にするか、屋外の施設、ハード施設にするかということは、御承知のとおり、以前大きな議論をして、こういう形になったものでございますので、また今後、無線のあり方、市が直接するんじゃないくて、違う情報の伝達方法とかというのもありますので、無線は大変有効ではあるが、それが市に直接、今、現にできるかということ、過去の議論を踏まえて検討していくことが大事だろうと思います。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 過去は、それが最善だと思ってやった方法でしょう。でも、今いろんな災害が起きるときに、果たしてこのままでいいかという考え方をもう一度考え直さなくては、いつまでも、あのときはあげんやったけ、そのまま行くばいじゃおかしいでしょう。そのあたりもよくよく考えて、前向きに考え直してほしいと思います。

次に、学校施設についてお尋ねいたします。児童数増加に伴う教室不足についてお尋ねします。

まず、立石小学校は児童総数何名を予想し、設計されましたか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 今の立石小学校につきましては、平成2年の3月に竣工し、平成2年の4月から供用開始をしておりますので、かなり昔に計画がなされておることでございます。

実際の人数につきましては、立石については非常に人口がふえているところがございます、児童数もふえているというような状況で、教室の数についても非常に苦慮しているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） それでは、総数何名を予想し設計されたかは、よくはわからないんですね。

立石小学校では、平成30年度718人から平成33年度には766名にふえ続けるようですが、この教室の確保についてお尋ねいたします。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） これにつきましては、併設をされておりました情報化推進センターを今年度改修をし、本年度から教室として使用することができるようになりましたので、当分の間は、必要となる教室は確保できる見込みということでございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 当分の間というのは、いつまででしょう。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 今の見込みで言いますと、住民基本台帳から児童数の推計をいたしておりますが、平成36年度までは人数が出ておりますので、大丈夫だろうというふうに思っていますが、やはり将来的に、今後、住宅開発等によって、人口流入がふえれば、教室不足になることもあり得るというようなことで考えております。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） あの部屋が改造されて、子どもたちの教室ができ、もともと何教室言いましたかね、あの教室は（発言する者あり）普通教室じゃないでしょ、できたのは（「特別支援教室」と呼ぶ者あり）特別支援教室に変わりました。そして、特別支援教室が普通教室に変わったわけですが、これからますますふえていくちいうときに、私はあの学校を見て、まず図工室も1つしかない。理科室も1つしかない。

いつか私の質問のとき、「AIのプログラミング授業などは行われますか」と聞いたときに、「行います」と答えられました。そのような視聴覚室などの特別教室も非常に少ないと、生徒数に比べると思われますが、どうお考えですか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） プログラミング教育につきましては、各教室でやる部分もございますし、パソコン教室は兼ね備えていますので、そういうことでございますが、やはり先ほどからも申し上げていますように、今後の児童推計がはっきりわからない、ふえる可能性もあるというところがございますので、私どもとしましては、児童数の増加により恒常的に教室が不足をするというようなことが確定した場合に備えまして、校舎の北側の東側に増築のスペースを確保しているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 学校に行って、子どもたちは靴箱と上に上る階段の間で学年集会をしております。どうのこうのじゃなくって、教室は足りない。これ以上またどんどんふえると、教室は非常に足りなくなると思いますので、思い切って頑張られたらどうですか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） まずは、普通教室の確保は何よりも最優先でございますので、そういうことを思って、教育委員会としてはそれを頭に入れながら計画をし、協議をしていきたいと思っています。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 何せ平成33年度には50人の生徒がふえるわけですから、やはり教室の確保はしっかりしていただかなければならないと思います。

私は先生に、「今、何が大変ですか」と聞きました。げた箱と階段の間に学年集会もしていることもそうですが、何かあったときに、みんなにそこに集まって、宮崎校長のときも、私はあそこに行って何かしましたよね。そういうことで、「先生たちも大変ばってんが、何が大変ね」と聞きました。そしたら、現場の先生方からは、「教室不足と女性職員トイレ」と答えられました。どう思われますか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 確かに、トイレ数は足りているかと言われれば、十分ではない個数になっているのではないかと考えています。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 女性トイレが大変だというお話を聞いた後に、私は教育委員会に、朝倉市立小中学校のトイレの現状を調査してくださいとお願いいたしました。どう感じられましたか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） それぞれの1人、先生方1人当たり男女、生徒の児童の1人当たり男女というものを出しました関係は、やはり非常に足りない。これは立石小だけではない学校もあるなと感じました。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 何も私は立石小のことだけを言うわけではありません。あそこを見ると、どこの学校もこの学校も、トイレが少ないのはもう目に見えております。かつ、和式の便所しかたくさんはないというのをわかっておりますので、そこら辺を言うてほしかった。

学校としては、「非常にトイレは困って、やっぱり洋式化を進めたいと思っています。す」ち言いたくはなかったですか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 洋式化については、今、約3割が洋式化しています。

私ども当然洋式が必要だろうと思っていますので、今回、大規模改修をいたしました秋月小学校につきましては、全て洋式化にするなど、そういった改築とか改修の時期に合わせまして、洋式化というものを進めていきたいと思っています。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） この調査書の中を見ますと、立石小女性職員29人、和式トイレ3基、休み時間でないと利用できない先生方のトイレが3つとはびっくりです。どう思われますか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 確かに少ない状況でございますので、先ほど申し上げましたように、改築とか増築の折に、トイレについては改修をしていきたいと思えます。

構造上がございまして、どうしても壁を取っ払うとか、そういうことができないような物理的なことがございますので、その校舎内でふやすというのには限界があると考えています。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） さっき言われましたよね。古くなった校舎や改築の折に、トイレの洋式化を進めたいと思う。でも、それでは、例えば立石小だけでいえば、あそこは耐震構造になっておりますので、改築も、もし教室も建てないということであれば、増築もできないでしょう。延々あのまんまで、トイレちいうのが非常に不思議です。計画というのはどうやったらできるのか。どうやったら先生方や子どもたちが、トイレぐらいスムーズに行けるのかをよくよく考えてほしいと思えますが。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 満足な答弁にはならないんですけど、先ほどみたいと同じにはなるんですが、構造上どうしても無理な部分があります。

例えば、立石小学校の中においては、その中でも、子どもたちの男子女子のトイレの一方を洋式化をして、双方からドアをつけて入れるとかいう形をしています。と申しますのは、洋式化すると、それだけの面積が必要になりますので、和式の便器数が減るということもございますので、今、限られた条件の中で何ができるかということについては、今後もしっかり考えていきたいと思えます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） しっかり考えてください。立石小の多目的トイレは男女兼用です。女性が入ったら、男性のところの鍵をかけます。男性が入れば、女性のところの鍵をかけます。鍵をかけ忘れたらどうなりますか、急いどって。

もう一つ、障害を持つ子どもたちにとって、あの広さでは、両方からあけて、先生方が両方から解除しないと、あのトイレが使えないということもありますので、そのあたり、それはもう大変と思う。改築のことからいろんなことを考えなされん。でも、どっかに解決策はあるはず。それを頑張って探してみてください。よろしく願いいたします。

次に、立石小の運動場西側の外便所、使ったことがありますか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 洋式化ができておりません。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） もしかして行ったことはないよね。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 行ったことはございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） どんなトイレでした。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） いわゆる昔風のトイレといったところです。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 昔のトイレより悪い。プールのようなためますの上に、コンクリートの床があって、そのコンクリートを一部広げたようなトイレです。小学校低学年が落ち込めば、中で泳いで上がらなくてはなりません。そんなトイレが、今どきあっていいものでしょうか。

私は昔から、このトイレのことは言っております。そして、スポーツ少年団、外を使うスポーツ少年団や体育祭の折、父兄から何とかならないかとの要望が再三上がっていましたが、どうなりますでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） これは先ほどから申し上げていますように、改修とか改築とか、そういう折にやっていきたいということでございますので、この外便所につきましては、排水の下水道の接続を次年度やりたいと思っておりますから、それに合わせて、洋式化については、もう既に実施設計なりをしているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員。

○11番（柴山恭子君） 水洗にするということですね。よかった。もうあのトイレは、苦になって苦になって、そして壁の前のほうに穴がほがしてあるので、子どもたちは後ろのほうです。そうすると、荷物が後ろに、どのトイレにもついとる。幸いコンクリートですので、ホースで水をじゃんじゃんかけながら掃除はできるのですが、今どきこんなトイレがあつていいものかとずっと思っておりましたが、来年度、洋式に改築されるということですね。よろしく願いしときます。

今トイレは、広くて清潔で、みんなで素手、素足、掃除ができる場所でないといけないと私は思っております。トイレはバリアフリーとし、先生も子どもたちも自慢できる我が校のトイレでなければなりません。何としても、教育委員会、財政と交渉してでも、トイレの洋式化と、そしてふやすことに力を尽くしてほしいと思います。

実を言うと、立石小の女性の先生は、割方そういう病気になりやすいそうです。3つしかない、二十何人もおる職員が、休み時間だけでないと利用できないのに、元来女性はト

イレの時間が長いんですね。男性のように行って、さっと済まして、さっと帰るちいうわけにはいかん。だから、その辺はしっかりと考え直してほしいと思いますので、よろしくお願いたします。

おお、12分も早く終わりました。これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○議長（中島秀樹君） 11番柴山恭子議員の質問は終わりました。  
10分間休憩いたします。

午後 1 時57分休憩